

Salesforce.Analytics-Admn-201.v2026-05-11.q19

| | |
|-----------|---------------------------------------------------|
| 試験コード : | Analytics-Admn-201 |
| 試験名称 : | Salesforce Certified Tableau Server Administrator |
| 認証ベンダー : | Salesforce |
| 無料問題の数 : | 19 |
| バージョン : | v2026-05-11 |
| ページの閲覧量 : | 104 |
| 問題集の閲覧量 : | 197 |

<https://www.jpnsshiken.com/shiken/Salesforce.Analytics-Admn-201.v2026-05-11.q19.html>

質問: 1

新人エンジニアから、Windows テストクラスタの初期ノードから Tableau Services Manager (TSM) にログオンできないという報告がありました。エンジニアにはどのアカウント認証情報を使用するよう指示すべきでしょうか？

- A. Creator サイト ロールを持つアカウント
- B. サイト管理者の役割を持つアカウント
- C. コンピュータの管理者権限を持つアカウント
- D. Tableau Server管理者のアカウント

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Services Manager (TSM) は、Tableau Server の構成、プロセス、トポロジを管理するための管理ツールです。TSM にログインするには `https://<server>:8850` の Web UI または CLI 経由)、以下のものがが必要です。

* TSM 管理者の資格情報: これらはサイト ロールとは異なり、インストール時に設定されるか、`tsm reset` によってリセットされます。

* ローカル管理者権限: Windows では、TSM はシステム レベルのサービスと対話するため、TSM へのアクセスに使用するアカウントは、最初のノードのローカル管理者グループに属している必要があります。

テストクラスタにおいて、エンジニアがログインできないということは、正しいTSM認証情報または十分なOSレベルの権限が不足していることを示唆しています。質問は「Windows 環境と 初期ノード」に焦点を当てているため、最も差し迫った要件は、TSMコマンドの実行またはUIへのアクセスに必要なローカル管理者権限です。

* オプションC (コンピュータの管理者権限を持つアカウント) : 正解です。エンジニアは、最初のノードのローカル管理者グループに属するアカウントを使用してTSMに認証する必要があります。その後、インストール時に設定したTSM管理者のユーザー名とパスワードが必要になります。

* オプションA (Creator サイトロールを持つアカウント) : 不正解です。サイトロール (例: Creator) は Tableau Server 内のコンテンツアクセスに適用され、TSM 管理には適用されません。

* オプション B (サイト管理者ロールを持つアカウント): 不正解です。サイト管理者はサイトコンテンツを管理しますが、サーバーレベルの TSM 機能は管理しません。

* オプション D (Tableau Server 管理者のアカウント) : 部分的には正しいものの、不完全です。これはおそらく TSM 管理者アカウントを指していると思われますが、マシンのローカル管理者権限がないとログインに失敗します。

オプション C の方が正確です。

参考: Tableau Server ドキュメント - 「TSM 認証」(https://help.tableau.com/current/server/en-us/tsm_overview.htm#authentication) を参照してください。

質問: 2

Tableau Server で抽出の更新を実行しようとした後にエラーが発生します。問題の原因を特定するために確認すべきことは何ですか？

A. tsm status -v コマンドで表示されるバックグラウンド プロセスのステータス

B. サイト ステータス ページの抽出のバックグラウンド タスク管理ビュー

C. 抽出データソースへの UNC パス

D. プロジェクト権限がプロジェクトにロックされているかどうか

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server で抽出の更新に失敗した場合、トラブルシューティングには根本原因 (接続の問題、リソースの制約、構成エラーなど) を特定する必要があります。抽出の更新はバックグラウンドプロセスによって処理されるため、この点が重要な焦点となりますが、最適な診断ツールは粒度とコンテキストによって異なります。詳しく見ていきましょう。

* 抽出更新プロセス:

* 抽出更新では、ソース (データベース、ファイルなど) からデータが取得され、Tableau Server に保存されている .hyper ファイルに書き込まれます。

* バックグラウンドは、スケジュールまたは手動トリガーに基づいてこれらのタスクを実行します。

* エラーは、データベース接続、資格情報、ファイルアクセス、リソースの過負荷、またはタスクの誤った構成によって発生する可能性があります。

* オプション B (抽出のバックグラウンドタスク管理ビュー) : 正解です。これは最も直接的で詳細な方法です。

* 場所: Tableau Server Web UI で、[サーバー] > [ステータス] > [抽出のバックグラウンドタスク] (または [サイト] > [ステータス] の下のサイト固有の場所) に移動します。

* 提供される詳細情報:

* タスク名、スケジュール、ワークブック/データ ソース。

* 開始/終了時刻とステータス (例: 失敗、成功)。

* エラー メッセージ (例: 「データベースに接続できません」、アクセスが拒否されました」)。

* 最適な理由: 特定の更新における正確な失敗 (例:「タイムアウト」、無効な資格情報」)を特定し、手動でログを精査することなく、実用的な洞察を提供します。サーバー管理者またはサイト管理者は、このビューにアクセスして問題を迅速に診断できます。

* 例: 「データベースへのログインに失敗しました」というエラーの場合は、次にデータソース設定で資格情報を確認します。

* オプション A (tsm status -v によるバックグラウンダー プロセスのステータス): 部分的には役立ちますが不十分です:

* 表示内容: すべてのプロセスの実行中/停止ステータス (例: Backgrounder: RUNNING)。

* 制限: バックグラウンダーが動作しているかどうかは確認できますが、特定のタスクが失敗した理由は明らかにされません (エラーの詳細やタスク レベルの詳細はありません)。

* ユースケース: バックグラウンダーが停止またはクラッシュした場合、これはより広範な問題を示している可能性があります。質問はサーバー全体の障害ではなく、単一の更新エラーを意味します。

* オプション C (抽出データソースへの UNC パス): 関連性はありますが、二次的なものです。

* コンテキスト: データソースがファイル (例ネットワーク共有上のCSV)の場合、UNCパス (例

\\server\share\file.csv) にアクセスできる必要があります。

* 最初に確認しない理由: エラーは無関係である可能性があります (例ファイルベースではなくデータベースの問題)。管理ビュー B)では、パスの問題であるかどうかを最初に確認し、指示された場合のみUNCパスを確認するように指示します (例:「ファイルが見つかりません」)。

* 実用的な注意: バックグラウンダーには共有権限が必要であり、実行アカウントがそれにアクセスする必要があります。コンテキストなしでこれをチェックすると、時間の無駄になります。

* オプション D (プロジェクトの権限がロックに設定されているかどうか): 可能性の低い原因:

* 権限の影響: ロックされた権限は、抽出更新が実行されるかどうかではなく、コンテンツを編集/表示できるユーザーを制限します。これは、データソースの接続設定とバックグラウンダーの実行に関連付けられています。

* 例外: 更新ユーザーにデータソースへの「接続」権限がない場合、失敗する可能性があります。これは稀です (通常は所有者/スケジュールにアクセス権があります)。管理ビューにフラグが表示されます。

これが重要である理由: バックグラウンド タスク ビューは、抽出診断用に特別に構築された Tableau のツールであり、時間を節約し、実稼働環境での推測作業を減らします。

参考: Tableau Server ドキュメント - 管理ビュー: 抽出のバックグラウンド タスク」 (https://help.tableau.com/current/server/en-us/adminview_background_tasks.htm)。

質問: 3

Tableau Server のインストール中に作成される自動生成されたシークレットを更新するには、どのコマンドを実行する必要がありますか？

- A. tsm セキュリティ アセットキーの検証
- B. tsm ライセンスの更新
- C. tsm データアクセスキャッシュセット -r 1
- D. tsm セキュリティ 内部トークンの再生成

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Tableau Server は、プロセス (リポジトリ、ファイルストアなど) 間の安全な通信のために内部シークレット (トークン) を使用します。これらはインストール時に自動的に生成され、セキュリティ侵害が発生した場合やセキュリティメンテナンスのために再生成できません。これらを更新するコマンドは以下のとおりです。

- * tsm security regenerate-internal-tokens: これにより、内部セキュリティ トークンが再生成され、再起動後にすべてのプロセスが新しいトークンを使用ようになります。
- * オプションC (tsm security regenerate-internal-tokens): 正解です。これは内部シークレットを更新するためのコマンドとして文書化されています。
- * オプションA (tsm data-access caching set -r 1): 誤りです。このコマンドはセキュリティ トークンではなく、キャッシュ動作を設定します。
- * オプションB (tsm ライセンス更新) : 誤。これは内部秘密とは関係のないライセンスデータを更新するものです。
- * オプションD (tsm security validate-asset-keys): 誤り。これは内部トークンではなく、アセットの暗号化キーを検証します。

参考: Tableau Server ドキュメント - 内部トークンの再生成」

(https://help.tableau.com/current/server/en-us/cli_security.htm#regenerate-internal-tokens)。

質問: 4

OpenID Connect を使用するには、どの Tableau Server 認証方法を構成する必要がありますか？

- A. ローカル認証
- B. ケルベロス
- C. アクティブディレクトリ
- D. SAML

正解: **D** ([コメントを发表する](#))

Tableau Server は、ローカル認証、Active Directory、Kerberos、SAML、OpenID Connect など、複数の認証方法をサポートしています。OpenID Connect (OIDC) は、OAuth 2.0 を基盤とした ID レイヤーであり、シングルサインオン (SSO) でよく使用されます。Tableau Server では、OIDC は SAML (Security Assertion Markup Language) 認証の一種として実装されています。これは、どちらも同じ構成ワークフローで管理される SSO プロトコルであるためです。

OpenID Connect を使用するには:

- * Tableau Server を SAML/SSO 用に構成します。
- * OIDC 互換の ID プロバイダー (IdP) 構成 (例: Google、Okta) を提供します。
- * TSM で IdP メタデータと証明書を設定します。
- * オプション D (SAML): 正解です。Tableau Server は OIDC を SAML 認証フレームワークのサブセットとして扱うため、TSM の SAML 設定で構成します。
- * オプション A (ローカル認証): 不正解です。ローカル認証では、OIDC などの外部 SSO プロトコルではなく、Tableau の内部ユーザー データベースが使用されます。
- * オプション B (Kerberos): 不正解です。Kerberos は Windows 環境向けのネットワーク認証プロトコルであり、OIDC とは無関係です。
- * オプション C (Active Directory): 不正解です。AD は認証に OIDC ではなく、LDAP または Kerberos を使用します。

参考: Tableau Server ドキュメント - SAML および OpenID Connect の構成」
(https://help.tableau.com/current/server/en-us/saml_config.htm)。

質問: 5

権限がプロジェクトにロックされていない場合、Tableau Server にサインインしてプロジェクト内のワークブックの権限を編集できる 2 つのタイプのユーザーは何ですか? (2 つ選択してください。)

- A. プロジェクトおよびワークブックの閲覧者ロールを持つユーザー
- B. ワークブックのインタラクタールールを持つユーザー
- C. ワークブックの所有者
- D. ワークブックのプロジェクトのプロジェクトリーダーに設定されたユーザー

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server のワークブックの編集権限は、ユーザーの役割とプロジェクトの権限設定によって異なります。権限はロックされていない (つまり 所有者による管理) ため、誰が編集できるかを見てみましょう。

* 権限モデル:

* ロックされていません: コンテンツ (ワークブック、データ ソース) の所有者は権限を設定でき、プロジェクト リーダーはプロジェクト レベルで上書きできます。

* サイト ロール: 最大の権限を定義します (例: Viewer、Explorer、Creator)。

* 機能: 権限の設定」は明示的であり、特定のユーザーのみが権限を取得できます。

* オプション C (ワークブックの所有者): 正解です。

* 詳細: 権限が所有者によって管理されている場合、所有者 (通常は発行者) は自分のワークブックを完全に制御できます。

* 方法: UI で、[コンテンツ] > [ワークブック] > [アクション] > [権限] に移動します。所有者はルールを編集できます (例: グループに編集者権限を付与する)。

* サイト ロール: 公開するには、Explorer (公開可能) または Creator の最低権限が必要であり、権限の設定」機能を確保します。

- * 理由: 所有権には、ロックされていない限り、本質的に権限管理が含まれます。
 - * オプション D (ワークブックのプロジェクトのプロジェクト リーダーに設定されたユーザー): 正解です。
 - * 詳細: プロジェクト リーダーは、コンテンツ > プロジェクト > アクション > 権限 > プロジェクト リーダーの設定から割り当てられます。
 - * 権限: 所有者でなくても、プロジェクト内のすべてのコンテンツの権限を編集できます。
 - * サイト ロール: サイト管理者またはサーバー管理者が必要です (Creator/Explorer のバリエーションで十分です)。
 - * 理由: 所有者による管理モードで所有権をオーバーライドし、プロジェクト レベルのガバナンスを確保します。
 - * オプション A (プロジェクトおよびワークブックの閲覧者ロールを持つユーザー): 誤りです。
 - * 理由: 閲覧者ロール (サイト レベル) では、プロジェクト/ワークブックのルールに関係なく、ユーザーは閲覧のみに制限され、権限の設定機能がありません。
 - * オプション B (ワークブックのインタラクタールールを持つユーザー): 不正解です。
 - * 理由: 「インタラクタールール」は標準的なロールではありません。インタラクション権限 (例: フィルター) を持つエクスプローラーやビューアーの名称としては不適切である可能性があります。権限編集権限は存在しません。
- これが重要な理由: 権限を編集できるユーザーを把握することで、アクセス制御のギャップを防ぐことができます。これは、共同作業環境や規制された環境では非常に重要です。
- 参考: Tableau Server ドキュメント - 権限」(<https://help.tableau.com/current/server/en-us/permissions.htm>)、プロジェクト リーダーの権限」(https://help.tableau.com/current/server/en-us/permissions_project_leader.htm) を参照してください。

質問: 6

Tableau Server のインストール中に作成される自動生成されたシークレットを更新するには、どのコマンドを実行する必要がありますか?

- A. tsm データアクセスキャッシュセット -r 1
- B. tsm ライセンスの更新
- C. tsm セキュリティ 内部トークンの再生成
- D. tsm セキュリティ アセットキーの検証

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server は、プロセス (リポジトリ、ファイルストアなど) 間の安全な通信のために内部シークレット (トークン) を使用します。これらはインストール時に自動的に生成され、セキュリティ侵害が発生した場合やセキュリティメンテナンスのために再生成できます。これらを更新するコマンドは以下のとおりです。

- * tsm security regenerate-internal-tokens: これにより、内部セキュリティ トークンが再生成され、再起動後にすべてのプロセスが新しいトークンを使用ようになります。

- * オプションC (tsm security regenerate-internal-tokens): 正解です。これは内部シークレットを更新するためのコマンドとして文書化されています。
- * オプションA (tsm data-access caching set -r 1): 誤りです。このコマンドはセキュリティトークンではなく、キャッシュ動作を設定します。
- * オプションB (tsm ライセンス更新) : 誤。これは内部秘密とは関係のないライセンスデータを更新するものです。
- * オプションD (tsm security validate-asset-keys): 誤り。これは内部トークンではなく、アセットの暗号化キーを検証します。

参考: Tableau Server ドキュメント - 内部トークンの再生成」

(https://help.tableau.com/current/server/en-us/cli_security.htm#regenerate-internal-tokens)。

質問: 7

Tableau Server に問題を引き起こす可能性が最も高いイベントは何ですか?

- A. サーバー上で追加のソフトウェアを実行しています
- B. バックグラウンダーと VizQL のプロセスを別のマシンに分離する
- C. 静的IPアドレスを使用するようにサーバーを構成する
- D. デフォルト以外のインストールパスを使用する

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server のパフォーマンスと安定性は、専用のリソースと適切な構成に依存します。同じサーバー上で追加のソフトウェアを実行すると、以下の理由により問題が発生する可能性が高くなります。

- * リソースの競合: Tableau Server では、大量の CPU、RAM、ディスク I/O が必要になります。他のソフトウェア (例: アプリケーション (たとえば、データベース、Web サーバー) がこれらのリソースを奪い合う可能性があり、速度低下、クラッシュ、またはタスクの失敗につながります。
- * ポートの競合: Tableau は特定のポート (例: 80、443、8850) を使用するため、他のアプリケーションが干渉する可能性があります。
- * セキュリティ リスク: 追加のソフトウェアにより攻撃対象領域が拡大し、Tableau Server が危険にさらされる可能性があります。

Tableau では、関連のないアプリケーションなしで専用ハードウェア上でサーバーを実行することを推奨しています。

- * オプションA (サーバー上で追加ソフトウェアを実行する) : 正解す。これはパフォーマンス問題の一般的な原因であり、Tableauのベストプラクティスでは明確に推奨されていません。

- * オプション B (バックグラウンダー プロセスと VizQL プロセスを別のマシンに分離する): 誤り。

これは、TSM 経由で適切に設定されていれば、問題を引き起こすことなくパフォーマンスを向上できる、サポートされているマルチノード構成です。

* オプションC (サーバーを静的IPアドレスを使用するように構成する) : 不正解
す。Tableau Serverでは、安定したネットワークアクセスを確保するために静的IPアドレスの使用が推奨されており、問題が発生する可能性は低いと考えられます。

* オプションD (デフォルト以外のインストールパスの使用) : 不正解。デフォルトではありませんが、カスタムパス (TSMまたはインストーラオプション経由)がサポートされており、権限とディスク容量が十分であれば問題が発生する可能性は低いでしょう。
参考資料: Tableau Server ドキュメント - 「インストールのベスト プラクティス」
(https://help.tableau.com/current/server/en-us/install_best_practices.htm) を参照してください。

質問: 8

Tableau Server を確実に復元できるようにするために、どの 3 つのタイプのデータをバックアップする必要がありますか? (3 つ選択してください。)

- A. サーバーシークレットとリポジトリパスワード
- B. トポロジデータ
- C. 構成データ
- D. リポジトリデータ

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server をバックアップすることで、障害や移行からの復旧を確実に行うことができます。完全バックアップには複数のデータタイプが含まれます。これを包括的に分析してみましょう。

* バックアップ コンポーネント:

* リポジトリデータ: メタデータ (ユーザー、権限、ワークブック)を含むPostgreSQLデータベース。tsm maintenance backup -f <filename>.tsbak でバックアップされます。

* 構成データ: サーバー設定 (ポート、認証など) も .tsbak ファイルに含まれます。

* サーバー シークレット: 暗号化キー、内部トークン、リポジトリ パスワード - 機能の復元に重要です。

* 抽出: ファイル ストア内の .hyper ファイル (オプション、個別のバックアップ)。

* オプション A (サーバー シークレットとリポジトリ パスワード): 正解です。

* 詳細: 暗号化キー (抽出用)、内部トークン (プロセス通信用)、リポジトリ認証情報が含まれます。別途バックアップするか、安全な場所に保管してください (例tsm security export-keys)。

* 重要である理由: これらがないと、復元されたデータにアクセスできなくなったり、サービスが失敗したりする可能性があります。

* オプション C (構成データ): 正解です。

* 詳細: ポート、認証設定、プロセス トポロジ - .tsbak ファイルの一部。

* 重要な理由: 回復後のサーバーの動作と接続を復元します。

* オプション D (リポジトリ データ): 正解です。

* 詳細: コア メタデータ データベース (.tsbak 形式)。

- * 重要である理由: これがないと、すべてのコンテンツとユーザー データが失われます。
 - * オプション B (トポロジ データ): 誤り。
 - * 詳細: トポロジ (プロセス分散) は .tsbak 内の構成データの一部であり、独立したエンティティではありません。「トポロジデータ」として明確にバックアップされるわけではありません。これが重要な理由: 完全なバックアップ (シークレット、構成、リポジトリ) があれば、完全な復元が保証されます。いずれかのバックアップが欠落していると、サーバーが使用できなくなるリスクがあります。
- 参考資料: Tableau Server ドキュメント - 「Tableau Server データのバックアップ」
(https://help.tableau.com/current/server/en-us/backup_restore.htm)。

質問: 9

新しく公開したワークブックの実行速度が遅いという報告をユーザーから受けました。問題を調査するために、まずユーザーに何を尋ねるべきでしょうか？

- A. Tableau Desktop では実行速度が速くなりますか？
- B. ワークブックの実行速度は常に遅いですか、それともパフォーマンスは変化しますか？
- C. Tableau Server でワークブックを何回開きましたか？
- D. ワークブックのキャッシュを有効にしましたか？

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server で新しくパブリッシュしたワークブックのパフォーマンスが低いという報告をユーザーから受けた場合、トラブルシューティングでは原因 (データソースの問題、サーバーの負荷、ワークブックの設計、キャッシュなど) を特定する必要があります。まずは、範囲を絞り込むための基準となる質問を明確にする必要があります。では、これを段階的に詳しく分析してみましょう。

* パフォーマンスコンテキスト:

* ワークブックの速度は次の要素に依存します。

* データ ソース: クエリの複雑さ、サイズ、ネットワーク待機時間 (例: データベースと抽出)。

* ワークブックの設計: フィルター、計算、ダッシュボードの複雑さ。

* サーバー リソース: VizQL レンダリング、バックグラウンダー ロード、キャッシュ。

* 「新しく公開」とは、まだ最適化されていないか、サーバー上でキャッシュされていないことを意味します。

* オプション A (Tableau Desktop では実行速度が速くなりますか?): 正解です。

* 最初に行うべき理由: デスクトップとサーバーのパフォーマンスを比較することは、最も基本的な診断手順です。

* デスクトップ ベースライン: デスクトップ (ローカル マシン) で速度が遅い場合、問題はサーバー固有ではなく、ワークブック (複雑なクエリ、大きなデータなど) またはデータソース (遅いデータベースなど) にある可能性があります。

- * サーバーの違い: デスクトップでは高速だがサーバーでは遅い場合、問題はサーバー側にある可能性があります (例: リソースの競合、サーバーからデータソースへのネットワーク遅延)。
 - * 実践的な次のステップ:
 - * デスクトップで遅い: ワークブックを最適化します (例: 計算を簡素化し、抽出を使用します)。
 - * デスクトップで高速: サーバーをチェックします (例: キャッシュ、VizQL の読み込み)。
 - * 重要な理由: 問題がワークブック/データに固有のものか、サーバーによって導入されたものかを特定し、以降の調査をすべてガイドします。
 - * オプション B (ワークブックの実行速度は常に遅いですか、それともパフォーマンスが異なりますか?): 有用ですが、二次的です。
 - * 最初にしない理由: 変動性 (例: 一時の速度低下) はサーバーの負荷を示唆していますが、デスクトップのベースラインがなければ、ワークブックの設計を除外することはできません。これはAの後のフォローアップの質問です。
 - * 詳細: 変動性はキャッシュまたは同時ユーザーの影響を示唆している可能性があります。サーバー側の原因を早急に想定しています。
 - * オプション C (Tableau Server でワークブックを何回開きましたか?): 最初は関連性が低いです。
 - * なぜ最初にしないのか: アクセス頻度はキャッシュに影響を与える可能性があります (最初の読み込みは遅く、その後の読み込みは速くなります)。しかし、これはあまりに具体的で、デスクトップとサーバーを区別することができません。ニッチなフォローアップです。
 - * オプション D (ワークブックでキャッシュを有効にしましたか?): 誤解を招きやすく、正しくありません。
 - * なぜ最初に導入しないのか: キャッシュはサーバー側で管理されます (例: VizQLのキャッシュ設定はTSMデータアクセスキャッシュセット経由)。ユーザーがワークブックごとに切り替えられるものではありません。ユーザーが「有効」にするのではなく、管理者が行います。さらに、ベースラインがないと、まだ時期尚早です。
- これが重要な理由: デスクトップのパフォーマンスから始めると、仮定が排除され、根本原因がクライアント側 (ワークブック/データ) にあるのか、それともサーバー側にあるのかを正確に特定できるため、運用環境での効率的な解決に不可欠です。
- 参考資料: Tableau Server ドキュメント - 「パフォーマンスのトラブルシューティング」
(https://help.tableau.com/current/server/en-us/troubleshoot_performance.htm)。

質問: 10

Tableau Server の導入では Active Directory 認証を使用しています。Active Directory からグループをインポートするプロセスを正しく説明している記述はどれですか？

- A. インポートされたグループに Tableau Server アカウントを持つユーザーが含まれている場合、そのユーザーのサイト ロールはインポート時に指定されたサイト ロールと一致するように変更されます。
- B. Active Directoryからグループをインポートするには、ユーザーIDをリストした.csvファイルが必要です。
- C. インポート中にグループの名前を変更できますが、Active Directory内のグループの名前は変更されません。
- D. グループのインポートの結果として作成された新しいユーザーには、インポート時に指定されたサイトロールが割り当てられます。

正解: ([正解を表示します](#))

AD グループを Tableau Server にインポートすると、ユーザー管理が同期されます。プロセスとオプションを分析してみましょう。

* ADグループのインポートプロセス:

* 方法: UI (ユーザー > グループ > グループの追加 > Active Directory) で、AD グループ名を入力し、サイト ロールを設定して同期します。

* 行動 :

* 既存のユーザー: ユーザーがすでに Tableau Server に存在する場合、手動で調整しない限り、そのサイトのロールは変更されません。同期によりアクセスがアップグレードされる場合にのみ、最小限のロールが適用されます。

* 新規ユーザー: インポート時に指定されたサイト ロールで Tableau に追加されます。

* 構成: TSM で AD 認証を有効にする必要があります。

* オプション D (作成された新規ユーザーには、インポート時に指定されたサイト ロールが割り当てられます): 正解です。

* 詳細: インポートする場合 (例: 「SalesTeam」グループ、サイト ロール: Explorer):

* 新規ユーザーには Explorer が提供されます。

* 既存のユーザーは、Explorer より下位でない限り (例: ライセンスのない # Explorer)、役割を維持します。

* 理由: オンボーディングの一貫性を確保し、新規ユーザーがグループの意図したアクセスに一致するようにします。

* オプション A (インポートに合わせて既存ユーザーの役割を変更する): 誤り。

* 理由: 既存のロールは、最小値より低い権限がない限り保持されます。例えば、インポートでエクスプローラーが設定された場合、Viewer は Viewer のままですが、Unlicensed はアップグレードされます。完全な上書きではありません。

* オプション B (.csv ファイルが必要): 不正解です。

* 理由: AD インポートでは、LDAP 経由のライブ同期が使用されます。.csv は必要ありません (ローカル認証インポートの場合)。

* オプション C (インポート中にグループ名を変更する): 誤りです。

* 理由: AD グループ名は固定されており、同期中に Tableau で名前を変更することはできません (AD をミラーリングします)。

インポート後の名前変更は可能ですが、プロセスの一部ではありません。

これが重要な理由: 正確な AD 同期によりシームレスなユーザー管理が保証されますが、ミスがあるとアクセスやライセンスが中断される可能性があります。

参考資料: Tableau Server ドキュメント - Active Directory グループの同期」

(<https://help.tableau.com>)

[/current/server/en-us/groups_sync.htm](https://help.tableau.com/current/server/en-us/groups_sync.htm))。

質問: 11

単一のバックグラウンダー プロセスが同時に実行できるタスクの最大数はいくつですか?

A. 1

B. 2

C. 3

D. 無制限 (サーバーリソースに基づく)

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server のバックグラウンダー プロセスは、抽出の更新やサブスクリプションなどのタスクを処理します。その同時実行性を調べてみましょう。

* バックグラウンド動作:

* 各インスタンスは、タスク実行のためにシングルレッド化されており、バックグラウンダーごとに一度に 1 つのタスクが実行されます。

* 複数のバックグラウンダー (例: マルチノード セットアップ) により並列処理が向上しますが、単一のバックグラウンダーでは同時実行タスクが 1 つに制限されます。

* キュー: 追加のタスクは、優先度 (1 ~ 100) に従ってキュー内で待機します。

* オプション A (1) : 正解です。

* 詳細: 単一のバックグラウンダーは、1 つのタスク (抽出の更新など) を完了してから次のタスクを開始します。

* 設定: TSM 経由でバックグラウンダーを追加します (`tsm topology set-process -n node1 -pr backgrounder`

`-c 2`) 同時実行性を高めます。

* オプション B (2): 不正解です。

* 理由: ネイティブではサポートされていません。単一のバックグラウンダーではタスクをマルチスレッド化できません。

* 選択肢 C (3) : 不正解です。

* 理由: シングルレッド設計を超えています。

* オプション D (無制限) : 不正解です。

* 理由: 同時実行はインスタンスごとに 1 に固定されています。リソースは同時タスクではなくキューの処理速度に影響します。

これが重要である理由: バックグラウンダーの制限を理解することでスケーリングが可能になります。インスタンスが増えると並列タスクも増えるため、負荷の高いワークロードには重要になります。

参考: Tableau Server ドキュメント - 「バックグラウンダー プロセス」
(<https://help.tableau.com/current/server/en-us/processes.htm#backgrounder>)。

質問: 12

複数のTableau Serverユーザーが、大きな抽出を含むワークブックをパブリッシュしました。数週間使用した後、ユーザーはワークブックを放棄しました。放棄されたワークブックを特定するにはどうすればよいですか？

- A. 古いコンテンツの管理ビューを使用する
- B. ProgramData/Tableau/Tableau Server/data/tabsvc/dataengine/extract 内の抽出ファイルを調べます。
- C. すべての抽出を削除し、まだ使用中の場合は自動的に再生成できるようにします。
- D. すべてのワークブックを表示し、変更日で並べ替えます

正解: ([正解を表示します](#))

放棄されたワークブック (アクティブに使用されなくなったワークブック) は Tableau Server を乱雑にし、リソースを消費する可能性があります (例:

(例: 抽出用ディスク容量など)。これらを効率的に特定するには、手動または破壊的な方法ではなく、組み込みの管理ツールを活用する必要があります。詳しく見ていきましょう。

* Tableau Server 管理ビュー: Tableau は、サーバーの健全性、使用状況、コンテンツを監視するための管理ビューをあらかじめ用意しています。サーバー] > ステータス] > 管理ビュー] からアクセスできる 古いコンテンツ] ビューは、最近表示または変更されていないコンテンツ (ワークブック、データソース) を特定するために特別に設計されており、以下の情報を表示します。

* コンテンツ名、所有者、プロジェクト。

* 最終閲覧日と最終更新日。

* 一定期間のビュー数。このビューはリポジトリ データを使用して使用状況メトリックを追跡するため、放棄されたワークブックを見つけるのに最適です。

* オプションA (古いコンテンツの管理ビューを使用する) : 正解です。これは最も効率的で、ユーザーに影響を与えない方法です。最終閲覧日 (例30日以上前) でフィルタリングすることで、ユーザーがアクセスしなくなった大きな抽出データを含むワークブックを特定できます。そこから所有者に連絡したり、ポリシーで許可されている場合はコンテンツを削除したりできます。これは、サーバー管理者がコンテンツ管理に活用するツールです。

* オプションB (ProgramData/.../extract内の抽出ファイルを調べる) : 誤であり、実用的ではありません。ProgramData/Tableau/Tableau Server/data/tabsvc/dataengine/extractディレクトリにはhyper抽出ファイルが格納されていますが、以下の点に注意してください。

* ファイル名は暗号化されており (GUID など)、ワークブック名に直接結び付けられていません。

* 使用状況や放棄状況は示されません。ファイルの存在とサイズのみが示されます。

- * 古いコンテンツ ビューと比較すると、手動による検査には時間がかかり、エラーが発生しやすくなります。
 - * オプションC (すべての抽出を削除し、再生成を許可する) これは正しくなく、リスクがあります。抽出を削除すると (例tsm メンテナンス クリーンアップを使用)、使用状況が特定されることなく抽出が削除されます。再生成はスケジュールまたはユーザーによってトリガーされた場合にのみ実行されるため、アクティブユーザーの作業が中断され、履歴データが不必要に失われる可能性があります。
 - * オプションD (すべてのワークブックを表示し、更新日で並べ替える) : 部分的には効果的ですが、効率は悪いです。Tableau Server UI (例[コンテンツ] > [ワークブック])では 最終更新日」で並べ替えることができますが、以下の点が問題となります。
 - * 閲覧数は表示されません (ワークブックは最近変更されたが使用されていない可能性があります)。
 - * これは手動で、古いコンテンツ ビューと比較して大規模な展開には対応していません。これが重要な理由 : 古いコンテンツビューは、Tableau のメタデータを活用して実用的なインサイトを提供し、手動または破壊的な代替手段と比較して時間を節約し、リスクを軽減します。これは Tableau のガバナンスツールキットの一部です。
- 参考資料: Tableau Server ドキュメント - 管理ビュー」
(https://help.tableau.com/current/server/en-us/adminview_stale_content.htm)。

質問: 13

Tableau Server がデータドリブンアラートのデータ条件が真であるかどうかを確認する 2 つの間隔は何ですか? (2 つ選択してください。)

- A. 60分ごと
- B. 10分ごと
- C. 新しい抜粋が公開されるたびに
- D. 関連するワークブックの抽出が更新されるたびに

正解: ([正解を表示します](#))

データドリブンアラートは、データが条件 (例 : 売上高 10,000 ドル) を満たした場合にユーザーに通知します。Tableau がこれらの条件をいつチェックするかを見てください。

* アラートの仕組み:

* サイトごとに有効化 (設定 > 全般 > データ駆動型アラート)。

* バックグラウンダーは抽出データに対して条件を評価します。

* チェック間隔: `tsm configuration set -k dataAlerts.checkIntervallnMinutes` で構成可能 (デフォルト: 60 分)。

* 更新トリガー: 抽出後の更新もチェックして即時更新を確認します。

* オプション A (60 分ごと): 正解です。

* 詳細: デフォルトの間隔 - バックグラウンダーは 1 時間ごとにポーリングしてアラート条件を評価します。

- * 設定: 調整可能 (例: 30 分の場合は -v 30)。
 - * オプション D (関連するワークブック内の抽出が更新されるたび): 正解です。
 - * 詳細: 抽出の更新によりデータが更新され、変更をすぐにキャッチするための即時アラートチェックがトリガーされます。
 - * 理由: 次のポーリングを待たずに、タイムリーな通知を確実に受け取れます。
 - * オプション B (10 分ごと): 不正解です。
 - * 理由: デフォルトではありません。構成経由では可能ですが、標準ではありません。
 - * オプション C (新しい抜粋が公開されるたび): 不正解です。
 - * 理由: パブリッシュにより抽出が作成され、アラートは最初のパブリケーションではなく、更新またはポーリング時にトリガーされます。
- これが重要な理由: タイミングはアラートの応答性に影響します。頻度とサーバー負荷のバランスをとることが重要です。
- 参考: Tableau Server ドキュメント - 「データ駆動型アラート」
(https://help.tableau.com/current/server/en-us/data_alerts.htm)。

質問: 14

Tableau Server のインストールでサポートされている 2 つのオペレーティング システムはどれですか? (2 つ選択してください。)

- A. Windows 7
- B. Windows 10
- C. Windows Server 2019
- D. Windows Server 2016

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Serverは本番環境向けに設計されており、デスクトップOSではなくサーバークラスのOSでのみサポートされています。最新のドキュメント 3月までの情報に基づく)では、

2025 年 1 月 21 日現在、Windows 版 Tableau Server でサポートされているオペレーティング システムは次のとおりです。

Windows Server 2016

Windows Server 2019

Windows Server 2022 (後のバージョンで追加されましたが、2025 年時点でも関連があります)。

Windows 7 や Windows 10 などのデスクトップ オペレーティング システムは、安定性、セキュリティ、パフォーマンスの要件により、運用環境のインストールではサポートされていません。

オプションA (Windows 7) : 不正解です。Windows 7はデスクトップOSであり、Tableau Serverではサポートされていません。また、2020年1月をもってサポートが終了しています。

オプション B (Windows 10): 不正解です。Windows 10 はデスクトップ OS であり、本番環境の Tableau Server 展開ではサポートされていませんが、本番環境以外のシナリオでのテストには使用できます。

オプション C (Windows Server 2019) : 正解です。これは Tableau Server でサポートされているサーバー OS です。

オプション D (Windows Server 2016) : 正解です。これも Tableau Server でサポートされているサーバー OS です。

参考: Tableau Server ドキュメント - 「Tableau Server のシステム要件」

(<https://help.tableau.com/current/server/en-us/requirements.htm>

を ご覧ください。

質問: 15

ユーザーに対して一般的なデータソースとテーブルのテーブル推奨を無効にするには、どうすればよいでしょうか?

A. サイト設定ページを使用してオプションを無効にする

B. 次のコマンドを使用します: `tsm configuration set -k recommendations.enabled -v false`

C. プロジェクトにロックされた権限を持つプロジェクトにのみデータソースを公開します

D. サーバー設定ページを使用してオプションを無効にする

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server のテーブル推奨機能は、Web 作成環境でユーザーが新しいコンテンツを作成する際に、よく使用されるテーブルとデータソースを提案します。この機能はデフォルトで有効になっていますが、サイトレベルで無効にすることもできます。

オプション A (サイトの設定ページでオプションを無効にする) : 正解です。サイト管理者は、Tableau Server Web インターフェイスでサイトの「設定」>「全般」ページに移動し、「テーブルの推奨を有効にする」オプションのチェックを外すことで、テーブルの推奨を無効にできます。これにより、そのサイトのユーザーにはこれらの提案が表示されなくなり、UI ベースのシンプルなソリューションが提供されます。

オプション B (コマンド `tsm configuration set -k recommendations.enabled -v false`): 不正解です。TSM 構成設定に `recommendations.enabled` キーがありません。この機能は TSM 経由でサーバー全体ではなく、サイトごとに管理されます。

オプション C (権限がロックされているプロジェクトにのみデータソースをパブリッシュする) : 不正解です。権限をロックするとアクセスは制限されますが、レコメンデーション機能自体は無効になりません。アクセス権を持つユーザーには、引き続きレコメンデーションが表示されます。

オプション D (サーバー設定ページを使用してオプションを無効にする) : 不正解です。表の推奨事項はサイト固有の設定であり、サーバー全体の設定ではありません。サーバー設定ページ (TSM 経由) は、この機能ではなく、グローバル設定を制御します。

参考: Tableau Server ドキュメント - 「サイト設定の管理」

(<https://help.tableau.com/current/server>)

[/en-us/site_settings.htm](https://help.tableau.com/current/server/en-us/site_settings.htm) をご覧ください。

質問: 16

有効かつ完全なコマンドはどれですか? (2 つ選択してください。)

- A. tsm メンテナンス バックアップ
- B. tsm メンテナンス リストア
- C. tsm メンテナンス クリーンアップ
- D. tsm メンテナンス ziplogs

正解: ([正解を表示します](#))

TSM コマンドは Tableau Server のメンテナンスを管理します。その構文を検証してみましょう。

* コマンド要件:

* 一部には引数 (ファイルパスなど) が必要ですが、その他はスタンドアロンです。

* 有効かつ完全: エラーなくそのまま動作する必要があります。

* オプション C (tsm メンテナンス クリーンアップ): 正解です。

* 詳細: 一時ファイルと古いログを削除します。引数は必要ありません (-l などのオプションフラグが存在します)。

* 使用: tsm maintenance cleanup-runs を完全に実行します。

* オプション D (tsm メンテナンス ziplogs): 正解です。

* 詳細: ログの zip を作成します (例: tsm-logs.zip)。引数は必要ありません (日付範囲の場合はオプションの -d)。

* 使用: tsm maintenance ziplogs-complete and valid。

* オプション A (tsm メンテナンス バックアップ): 誤りです。

* 理由: -f <filename>.tsbak が必要です (例: tsm maintenance backup -f backup.tsbak)。これがないと不完全です。

* オプション B (tsm メンテナンス リストア): 誤りです。

* 理由: -f <filename>.tsbak (例: tsm maintenance restore -f backup.tsbak) が必要です (スタンドアロンではありません)。

これが重要である理由: 正しい構文により、メンテナンス タスクがエラーなく実行されることが保証されます。これはサーバーの健全性にとって重要です。

参考資料: Tableau Server ドキュメント - 「TSM メンテナンス コマンド」

(<https://help.tableau.com/current>)

[/server/en-us/cli_maintenance_tsm.htm](https://help.tableau.com/current/server/en-us/cli_maintenance_tsm.htm))。

有効的な **Analytics-Admn-201** 問題集は JPNTTest.com 提供され、**Analytics-Admn-201** 試験に合格することに役に立ちます! JPNTTest.com は今最新 **Analytics-Admn-201** 試験問

題集を提供します。JPNTest.com Analytics-Admn-201試験問題集はもう更新されました。ここで**Analytics-Admn-201**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Analytics-Admn-201-mondaishu> **57問、30%ディスカウント**、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 17

記録ワークブックのパフォーマンス メトリックが有効になっているサイトで、ビュー URL を構成して記録を有効にするには、どうすればよいですか？

- A. ビューの上部にあるツールバーの[パフォーマンス]リンクをクリックします。
- B. ビューURLの末尾、セッションIDの直後に:record_performance=yes&と入力します。
- C. ビューURLの末尾、セッションIDの直前に:record_performance=yes&と入力します。
- D. URL内のセッションIDを削除し、ビューをリロードします。

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server は、読み込みが遅いビューのトラブルシューティングに役立つよう、ワークブックのパフォーマンスメトリクスを記録できます。この機能は、サイトレベルで有効にする必要があります [設定] > [全般] > [パフォーマンス記録を許可]。有効にすると、特定のビューの URL を変更することで、そのビューの記録をトリガーできます。

正しい構文は、ビューURLのセッションIDの直後に :record_performance=yes& を追加することです。例:

* オリジナル

URL: <http://server/#/site/my-site/views/workbook/view?iid=1>

* 変更済み

URL: http://server/#/site/my-site/views/workbook/view?iid=1:record_performance=yes&

このパラメータを使用してビューをロードすると、パフォーマンス記録が生成され、ツールバーの [パフォーマンス] オプションからアクセスできるようになります。

* オプションB (ビューURLの末尾、セッションIDの直後に「record_performance=yes&」と入力) : 正解です。これは、Tableauのドキュメントに記載されているパフォーマンス記録の有効化方法に従っています。

* オプションA (ツールバーの「パフォーマンス」リンクをクリックする) : 不正解です。「パフォーマンス」リンクは、URL経由で記録が開始された後にのみ表示されます。この方法では記録が有効になりません。

* オプションC (セッションIDの直前に「record_performance=yes&」と入力) : 正しくありません。パラメータはセッションIDの後に続けて入力する必要があります (例:iid=1)。

* オプションD (URL内のセッションIDを削除してビューを再読み込みする) : 不正解です。ビューを正しく読み込むにはセッションIDが必要です。セッションIDを削除するとURLが壊れてしまいます。

参考: Tableau Server ドキュメント - 「ビューのパフォーマンスの記録」

(<https://help.tableau.com/current>

/server/en-us/perf_record.htm)。

質問: 18

Tableau Server で信頼できるチケットを使用すると、ユーザーは次のことが可能になります。

- A. 資格情報の入力を求められることなく埋め込みビューにアクセスします
- B. データベース接続を暗号化する
- C. ワークブックを保存および編集する
- D. データベース資格情報を埋め込む

正解: ([正解を表示します](#))

Trusted Tickets は、Tableau Server の認証方法の一つで、ユーザーが手動でログインすることなく、外部アプリケーション (ポータルなど) にビューを埋め込むことができます。仕組みは以下のとおりです。

- * 信頼できるアプリケーション (Web サーバーなど) は、信頼できる IP またはユーザー名/パスワードを使用して Tableau Server で認証します。
- * Tableau Server は一時チケット (一意の文字列) を発行します。
- * チケットはビュー URL (例: /trusted/<ticket>/views/...) に埋め込まれ、短期間 (構成可能、デフォルトは 5 分) のビューへのアクセスを許可します。
- * オプション A (認証情報を求められずに埋め込みビューにアクセスする) : 正解です。信頼済みチケットは、埋め込みコンテンツに対して SSO のような動作を可能にし、チケットが有効な場合はログインプロンプトをバイパスします。これは、外部システムとのシームレスな統合に最適です。
- * オプション B (データベース接続の暗号化) : 不正解です。暗号化は、ユーザー認証に重点を置く信頼できるチケットではなく、データソース構成 (SSL など) によって処理されます。
- * オプション C (ワークブックの保存と編集): 不正解です。信頼できるチケットは、編集権限ではなく表示アクセスを付与します。編集権限は、ユーザーのサイト ロールと権限によって異なります。
- * オプション D (データベース認証情報の埋め込み) : 不正解です。信頼できるチケットは、データベースではなく Tableau Server へのユーザー認証を行います。データベース認証情報はデータソース内で別途管理されます。

これが重要な理由: 信頼できるチケットにより、Tableau コンテンツをカスタム アプリケーションに安全に埋め込むことが簡単になり、ユーザー エクスペリエンスが向上します。

参考: Tableau Server ドキュメント - 信頼できる認証」

(<https://help.tableau.com/current/server>)

/en-us/trusted_auth.htm を参照してください。

質問: 19

16個のプロセッサコアを搭載したサーバーを所有しています。インストーラーによって設定されるVizQLインスタンスのデフォルト数はいくつですか？

- A. 4
- B. 6
- C. 10
- D. 2

正解: ([正解を表示します](#))

Tableau Server の VizQL Server プロセスは、ダッシュボードやワークブックを閲覧するユーザーのために、ビジュアライゼーションのレンダリングとクエリ処理を行います。インストール時に、Tableau Server はマシン上のプロセッサコア数に基づいて、以下のルールに従い、VizQL インスタンスの数を自動的に構成します。

インストール後に手動で調整しない限り、デフォルトの VizQL インスタンスはノードごとに 2 個です。

マルチノード設定では、コア数に基づいて追加のインスタンスを追加できますが、質問では 16 個のコアを持つ単一のサーバーが指定されています。

インストーラーは、デフォルトではコア数に応じて VizQL インスタンスを線形にスケールしません（例4コアにつき1インスタンスを設定することはありません）。代わりに：単一ノードインストールの場合、コア数に関係なく、デフォルトは 2 つの VizQL インスタンスです（最小ハードウェア要件（8 コア、32 GB RAM）が満たされていると仮定）。

管理者は、パフォーマンスのニーズに基づいて、後で TSM（例: tsm topology set-process）を使用してこれを調整できますが、質問ではインストーラーによって構成されたデフォルトを尋ねています。

オプションA 4)：不正解。16コアサーバーの場合、4つのインスタンスを手動で構成することは可能ですが、これはデフォルトではありません。

オプションB 6)：不正解。6つのインスタンスは、単一ノードのデフォルトを超えています。

オプションC 10)：不正解。10インスタンスはデフォルトをはるかに超えているため、手動での設定が必要になります。

オプションD 2)：正解。インストーラーは、単一ノードインストールでデフォルトで2つのVizQLインスタンスを設定します。

参考: Tableau Server ドキュメント - 「サーバー プロセス設定」

(<https://help.tableau.com/current/server>)

[/en-us/processes.htm](https://help.tableau.com/current/server/en-us/processes.htm)) を参照してください。

有効的な**Analytics-Admn-201**問題集はJPNTest.com提供され、**Analytics-Admn-201**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**Analytics-Admn-201**試験問題集を提供します。JPNTest.com Analytics-Admn-201試験問題集はもう更新されました。ここで**Analytics-Admn-201**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアク

セス、<https://www.jpntest.com/shiken/Analytics-Admn-201-mondaishu> 57問、30%
ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」